

# けんぽく農林ニュース

～「くだもの・きゅうり・花き王国の飛躍と農林業の持続的な発展」～

令和5年12月26日発行 第100号





## 冬の味覚「ハウスしゅんぎく」と「秋冬にら」




鍋の具材として欠かせない名脇役。



農産物直売所やお近くのスーパー等にも並んでいますので、お買い求めください。



### ～目次～



- 野生山菜の出荷制限 P 1
- 令和5年度フレッシュ農業講座を開催しました P 2
- 「先輩就農者等視察バスツアー」を開催しました！ P 3
- 「ふくしま農業人フェア in 福島」が開催されました P 4
- 福島・川俣地域農業経営セミナーを開催しました P 5
- 令和5年度農村整備部安全パトロールを実施しました！ P 6
- 大学生のインターンシップを開催！ P 7
- 令和5年度伊達地域普及推進懇談会を開催しました P 8
- 先輩農業者を巡るバスツアーの開催 P 9
- 「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーン in 安達 を実施しました P10
- 県北産のりんごと野菜をフルシーズン、フルに楽しみましょう！ P11
- 食品表示法研修会（県北地方）を開催 P12
- ぶどう栽培技術「盛土式根圏制御栽培」の現地検討会を開催しました P13
- JAふくしま未来の表敬訪問を受けました！ P14
- 花を愛でる文化の醸成に向けて花育活動を実施しました P15
- 令和5年度県北地方特定家畜伝染病防疫演習を開催しました P16
- 福島県富女子会が活動開始しました P17
- 県北地方における福島県環境負荷低減事業活動実施計画認定（農業・畜産）の説明会開催 P18
- JA 農産物品評会が開催されました P19
- 県北管内の生産者が県林業コンクール・きのご品評会で入賞しました P20
- 「にら」、「しゅんぎく」の出荷が始まりました！ P21
- 大玉村で福島県トップブランド米「福、笑い」の収穫式を開催 P22
- 第2回きゅうり基礎講座の開催 P23
- 今年も「布沢棚田の芸術祭」が開催されました！ P24
- 令和5年度「田んぼの学校 稲刈り」を行いました！ P25
- 令和5年度「田んぼの学校 脱穀」を行いました！ P26
- 農業水利施設の役割について学習しました！ P27
- 3つの小学校で木工教室出前講座を実施しました P28
- 国見小学校の児童が「天のつぶ」の稲刈りをしました P29
- 鳥獣被害防止対策モデル集落による視察研修会を開催しました P30





題名	野生山菜の出荷制限	
本文	<p>12月になると、ふきのとう（野生）の発生が見られます。ふきのとう（野生）は、福島市、伊達市、本宮市、桑折町、国見町、川俣町で出荷が制限されていますので、以下の行為をしないでください。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 店舗や料理店等への出荷</li> <li>2 乾燥や水煮などの加工品の原料への使用</li> <li>3 フリマアプリ・無人直売所等の個人売買での出荷</li> <li>4 他人への譲渡</li> </ol> <p>また、その他の野生の山菜類についても、市町村・品目ごとに出荷が制限されているものがあります。</p> <p>出荷制限品目等の確認は以下をご覧ください。  【福島県林業振興課ホームページ  <a href="https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36055c/ringyo-monitoring.html">https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36055c/ringyo-monitoring.html</a>】</p> <p>出荷が制限されていない野生の山菜類について、出荷する場合は県のモニタリング検査を受ける必要がありますので、当所へお知らせください。  【担当部署：森林林業部林業課 電話：024-521-2632】</p>	
写真	 <p>福島県農林水産物・加工食品モニタリング情報  Fukushima prefecture agriculture, forestry and fisheries products processed food monitoring information  福島県による農林水産物の産地別産量の調査結果をお知らせしています。</p> <p>English 英化学 英語学 Italiano 計算</p> <p>よくある質問と回答</p> <p>2018年3月1日より「ふくしま新発売。」のサイトデザインをリニューアルしました。</p> <p>項目から探す  下記から産地別野菜を選択してください。</p> <p>野菜 Vegetables  果物 Fruits  根菜・芋類 Root-Potatoes  山菜・きのこ Mountain herbs Mushrooms  玄米・穀類 Brown rice Cereals  肉・卵・原乳 Meat・Egg Raw milk  魚介類 Seafood  その他生鮮食品 Other  農林水産物全て All items  加工食品 Processed food</p>	 <p>出荷制限市町村  (ふきのとう(野生)のものに限る)</p>
写真タイトル	<p>写真1 福島県農林水産物・加工食品モニタリング情報ホームページ  (<a href="https://www.new-fukushima.jp/top">https://www.new-fukushima.jp/top</a>)  写真2 ふきのとう(野生)の出荷制限位置図</p>	
担当部署	森林林業部	
振興方向	1 東日本大震災及び原子力災害からの復興加速化	


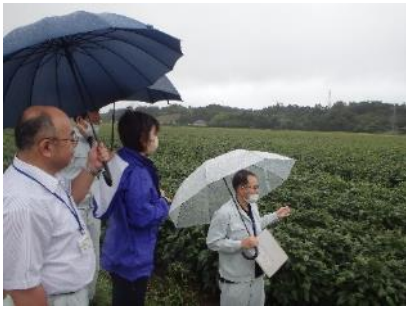


<p>題名</p>	<p><b>令和5年度フレッシュ農業講座を開催しました</b></p>	
<p>本文</p>	<p>令和5年9月14日（木）、福島県立福島明成高等学校生物生産科2年生78名が、当所主催による「令和5年度フレッシュ農業講座」に参加しました。</p> <p>この講座は農業高校の生徒の就農意欲向上のために毎年開催しているもので、今年度は生徒の専攻ごとに3つのコースに分かれて現地見学を行いました。</p> <p>栽培・飼育コースでは、水稻・大豆栽培及び農産加工品の製造・販売を行う生産者と酪農を行う生産法人、野菜・果樹コースでは、大規模に果菜類を出荷する生産者、草花コースでは、トルコギキョウ栽培を行う生産者を見学しました。</p> <p>参加した生徒は生産者の説明を熱心に聞き、「施設のコストはどのくらいかかるか、農業の大変なところは何ですか」など質問があり、積極的な姿勢がみられました。</p> <p>講座後のアンケートでは、農業や見学先に興味を持ったと回答した生徒が多くみられ、講座を通して農業に対する関心が深まっていました。また、普段見られない機械、設備を見学することができ、農業についての知識を向上させることもできました。</p> <p>当所では、今後も農業高校の生徒の就農意欲向上が図られるよう支援していきます。</p>	
<p>写真</p>	 <p>写真1</p>  <p>写真2</p>  <p>写真3</p>  <p>写真4</p>	
<p>写真タイトル</p>	<p>写真1 水稲・大豆生産者見学          写真2 酪農生産者見学          写真3 野菜生産者見学          写真4 トルコギキョウ生産者見学</p>	
<p>担当部署</p>	<p>農業振興普及部</p>	
<p>振興方向</p>	<p>2 農林業の持続的な発展を支える担い手の確保・育成と生産基盤の強化</p>	

<p>題名</p>	<p><b>「先輩就農者等視察バスツアー」を開催しました！</b></p>
<p>本文</p>	<p>令和5年10月25日(水)、就農を希望する方を対象に、農業を始めて2～3年になる先輩就農者の生産現場や道の駅ふくしまの農産物直売所を見学するバスツアーを当所主催で開催し、27名が参加しました。</p> <p>初めに、きゅうりとねぎを栽培する野菜就農者のビニールハウスとほ場を視察し、次に、ももとぶどうを栽培する果樹就農者の樹園地を視察しました。先輩就農者からは、現在の営農状況をはじめ、就農に至った経緯や資金面での苦労話などを含めて就農したからこそ得られる就農のメリットやデメリットについて聞くことができました。</p> <p>また、昨年オープンした道の駅ふくしまの農産物直売所を視察し、ぶどう・なし・りんご・きゅうり・ミニトマト等たくさんの出荷品目が並んでいる中で、商品展示方法および販売状況を見ることで、営農を開始する際の販売経路の一つとして検討することができ、就農時のイメージを高める一助となりました。</p> <p>参加者は、農業技術の習得には時間が掛かり、就農前に思い描いた収入目標にはまだ至っていないという先輩就農者の現実的な話を聞きながらも、目を輝かせて前向きな質問をする就農希望者の姿が印象的でした。</p>
<p>写真</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>写真1</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>写真2</p> </div> </div>
<p>写真タイトル</p>	<p>写真1 きゅうりビニールハウス前での説明の様子          写真2 もも樹園地内での説明の様子</p>
<p>担当部署</p>	<p>農業振興普及部</p>
<p>振興方向</p>	<p>2 農林業の持続的な発展を支える担い手の確保・育成と生産基盤の強化</p>



<p>題名</p>	<p>「ふくしま農業人フェア in 福島」が開催されました</p>
<p>本文</p>	<p>令和5年10月29日(日)、福島県主催の就農イベント「ふくしま農業人フェア in 福島」が、福島市のアクティおろしまちコンベンションホールにて開催されました。</p> <p>「ふくしま農業人フェア」は、これからの福島県農業を支える担い手を確保することを目的として令和元年より開催されている就農相談イベントです。県北地方を中心とした県内の市町村や農業法人、農業関係団体などが相談ブースを出展し、就農支援制度や雇用情報等の新規就農に関する様々な相談に対応します。</p> <p>今年度は、全体で57名の方々が来場され、農業普及部ブースが9名、伊達農業普及所ブースが9名、安達農業普及所ブースが4名で、延べ22名から相談をいただきました。</p> <p>相談の内容としては、「県外に住んでおり福島県が好きなので福島で農業を始めたいが、何から始めればよいか分からない」といったことから「親の農業を引き継ぎたいが、どうすれば良いか」など幅広いものでした。</p> <p>今後も将来の農業を担う皆様の力となれるよう、いただいた相談内容を各関係機関と共有するとともに、連携・協力をしながら就農へ向けた取り組みをサポートしていきます。</p>
<p>写真</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>写真1</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>写真2</p> </div> </div>
<p>写真タイトル</p>	<p>写真1 主催者のあいさつ          写真2 県北農林事務所の相談ブース設置の様子</p>
<p>担当部署</p>	<p>農業振興普及部</p>
<p>振興方向</p>	<p>2 農林業の持続的な発展を支える担い手の確保・育成と生産基盤の強化</p>


<p>題名</p>	<p><b>福島・川俣地域農業経営セミナーを開催しました</b></p>
<p>本文</p>	<p>令和5年11月16日(木)、福島市のチェンバおおまちにおいて、福島・川俣地域農業経営セミナーを開催しました。</p> <p>本セミナーは農業者の経営に関する知識習得を目的として、福島市及び川俣町の認定農業者等を対象に毎年開催しています。</p> <p>今年度は、普及指導協力委員である税理士法人寺田共同会計事務所の税理士 深瀬善太様に「インボイス制度における農業者の対応について」、同じく普及指導協力委員である福島学院大学短期大学部 情報ビジネス学科の教授 木村信綱様に「消費者にアピールできるパッケージデザインについて」と題して御講演いただきました。</p> <p>インボイス制度は令和5年10月1日(日)から開始されており、農業経営においても対応が必要となる場合があること、また、インターネット・直売所等を利用して農業者から生産物を直接購入する消費者が増加しており、数ある商品の中から選んでもらうには、消費者へのアピールが必要となっていることについて、各講師よりわかりやすい説明をいただきました。</p> <p>このため、出席者の皆さんは両講師の講演を熱心に聞くとともに、今後の経営に役立てるための質問を積極的にしていました。</p> <p>当所では引き続き、農業者の皆様の知識習得の支援に努めていきます。</p>
<p>写真</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>写真1</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>写真2</p> </div> </div>
<p>写真タイトル</p>	<p>写真1 「インボイス制度における農業者の対応について」を講演する深瀬税理士 写真2 「消費者にアピールできるパッケージデザインについて」を講演する木村教授</p>
<p>担当部署</p>	<p>農業振興普及部</p>
<p>振興方向</p>	<p>2 農林業の持続的な発展を支える担い手の確保・育成と生産基盤の強化</p>

<p>題名</p>	<p><b>令和5年度農村整備部安全パトロールを実施しました！</b></p>		
<p>本文</p>	<p>令和5年11月15日（水）、農村整備部で発注している工事において、安全に施工しているかを点検する安全パトロールを実施しました。</p> <p>県有施設大笹生ダムの老朽化した放水路トンネルの補強工事とダム湖底に堆積した土砂を処理するための敷地内処理場の造成工事、川俣町山木屋地区の暗渠排水工事、大玉村荒池地区のため池改修工事の3現場を農村整備部職員9名、総務部職員5名で工事進捗状況の把握と現場管理、安全管理、衛生管理の実施状況などを点検しました。</p>		
<p>写真</p>			
	<p>写真1</p> 	<p>写真2</p> 	
<p>写真タイトル</p>	<p>写真1 大笹生ダム放水トンネル内の照明施設の設置状況          写真2 大笹生ダムの堆積土砂処理場の造成状況          写真3 川俣町山木屋地区の暗渠排水工事の実施状況          写真4 大玉村荒池地区のため池改修工事の実施状況</p>		
<p>担当部署</p>	<p>農村整備部</p>		
<p>振興方向</p>	<p>2 農林業の持続的な発展を支える担い手の確保・育成と生産基盤の強化</p>		

<p>題名</p>	<p><b>大学生のインターンシップを開催！</b></p>		
<p>本文</p>	<p>令和5年9月4日（月）から9月13日（水）まで、当所農村整備部において、大学3年生2名がインターンシップを行いました。</p> <p>本県では、職業意識の向上や本県行政に対する理解を深める機会を提供するとともに、本県職員採用試験の紹介のためインターン生を受け入れています。</p> <p>今回は、主に農業土木職員の職場体験として、農業農村整備事業の現場視察や事務作業を実習していただきました。</p> <p>現場研修では、二本松市「山ノ入ダム」、頭首工（取水堰）「岩堰」、防災重点農業用ため池の改修工事中である「荒池地区」において、施設の設置目的や工事内容、施設管理の実情を学びました。更に、相双農林事務所が南相馬市鹿島区「真野地区」で実施中のほ場整備事業の現場において説明を受けました。</p> <p>また、川俣町山木屋地区で実施中の農業基盤整備促進事業（復興基盤総合整備事業）を題材に、農地の暗渠排水工事における現地調査や設計図面と数量のチェックなど、県職員が実際に行う作業も体験しました。</p> <p>最終日には、実習内容と感想を発表し、当所職員と意見交換を行いました。学生からは、「工事实施中の現場に行って実際の仕事に触れられて良かった」「県北管内では、特にダムやため池といった農業水利施設の長寿命化に向けて取り組んでいることを知った」などの発言がありました。</p> <p>当所では、今後とも業務に対する県民の理解促進や将来県職員を目指す方々の指標となるよう、取り組んでいきます。</p>		
<p>写真</p>			<p>写真1 写真2</p>
			<p>写真3 写真4</p>
<p>写真タイトル</p>	<p>写真1 山ノ入ダム操作室 写真2 ほ場整備事業（真野地区） 写真3 ため池改修工事（荒池地区） 写真4 実習発表</p>		
<p>担当部署</p>	<p>農村整備部</p>		
<p>振興方向</p>	<p>2 農林業の持続的な発展を支える担い手の確保・育成と生産基盤の強化</p>		



<p>題名</p>	<p><b>令和5年度伊達地域普及推進懇談会を開催しました</b></p>
<p>本文</p>	<p>令和5年9月20日（水）に、当普及所主催による「令和5年度伊達地域普及推進懇談会」を開催しました。</p> <p>本懇談会は、普及活動現場の見学と会議の2部構成で、最初に当普及所が設置している現地実証ほ場の1つである「ぶどう根圏制御栽培」のほ場（伊達市梁川町）を見学しました。ほ場では技術の概要と成果・課題等についてを当普及所果樹担当から、園主である高橋幸三氏からは取り組んでの感想などを説明いただきました。参加者からは初期投資費用や、収量・品質の状況など多くの質問が出され、関心の高い技術であると改めて認識させられました。</p> <p>会議室に場所を移し、令和4年度の普及活動成果と令和5年度上半期の取組について、各課題主担当から説明した後、意見交換を行いました。参加者からは、市町からの地域計画策定支援など、現状の普及活動の継続要望が多くだされた一方、担い手の柱である認定農業者ですら高齢化している実態やGAPの理解が進んでいない現状を指摘する意見、民間のコンサルタント会社の活用により単収が増加した事例の紹介など様々な意見・要望が出ました。</p> <p>当普及所では、これら貴重な意見等を年度後半にしっかり反映させ、より効果的な普及活動を展開していきます。</p>
<p>写真</p>	<div style="text-align: center;">  <p>写真1</p>  <p>写真2</p> </div>
<p>写真タイトル</p>	<p>写真1 ぶどう根圏制御栽培実証ほ場見学          写真2 普及推進懇談会会議場</p>
<p>担当部署</p>	<p>伊達農業普及所</p>
<p>振興方向</p>	<p>2 農林業の持続的な発展を支える担い手の確保・育成と生産基盤の強化</p>

<p>題名</p>	<p><b>先輩農業者を巡るバスツアーの開催</b></p>
<p>本文</p>	<p>令和5年9月21日(木)、二本松市の3ほ場をツアー先として、「安達地域新規就農研修会『先輩農業者を巡るバスツアー』」を開催しました。</p> <p>本ツアーには、就農間もない二本松市や大玉村の新規就農者をはじめ、県北地方で就農を希望している福島市と新潟県の方など12名が参加しました。</p> <p>ツアー先の先輩農業者は、令和に就農しきゅうりの経営規模を徐々に拡大している方、平成に就農し有機農業の経営規模を拡大している方、そして、昭和に就農し安達地域の代表的な園芸品目であるきゅうりを経営の柱として研修生の受入も行っている方で、それぞれの経験をもとに三者三様の声を参加者に伝えていただきました。</p> <p>参加者は、研修地や車中で意見交換するとともに、先輩農業者へ積極的に質問していました。終了後のアンケートでは、「失敗談が聞けて参考になった」「栽培方法のポイントが聞け、長期間収穫している素晴らしいほ場は目標になる」「売り方の戦略がはっきりしていて勉強になった」「貴重な機会になった」「交流を広げるきっかけとなった」等の感想をいただきました。</p> <p>当普及所では、今後も、就農に向けて無理なく農業を始めていただくとともに、就農間もない方に農業経営を継続していただくため、今回のような機会を引き続き設けるなどして、新規就農と就農定着を促進していきます。</p>
<p>写真</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>写真1</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>写真2</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>写真3</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">  <p>写真4</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>写真5</p> </div> </div>
<p>写真タイトル</p>	<p>写真1 収穫の終わったきゅうりほ場で就農4年目の先輩の話聞く参加者          写真2 大規模きゅうり生産者の先輩のかん水システムの前で話を聞く参加者          写真3 長期間収穫中の管理のいきとどいた露地きゅうりほ場          写真4 有機栽培をしている先輩から土づくりと多品目栽培の考え方を聞く参加者          写真5 オクラの有機栽培ほ場を視察</p>
<p>担当部署</p>	<p>安達農業普及所</p>
<p>振興方向</p>	<p>2 農林業の持続的な発展を支える担い手の確保・育成と生産基盤の強化</p>

<p>題名</p>	<p>「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーン in 安達 を実施しました</p>
<p>本文</p>	<p>令和5年11月12日(日)、二本松市道の駅安達上り線において令和5年度第4回「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーンを実施しました。</p> <p>本キャンペーンはアグリビジネス・ネットワークあだちと共催で、実施したもので、福島県のお米のトップブランドである「福、笑い」のPRとアグリビジネス・ネットワーク会員による安達地域の農産物や加工品等の販売を行いました。</p> <p>「福、笑い」については、アグリビジネス・ネットワークあだち会員の製造した「おにぎり」と同会員が開発した6次化商品の「ごはんに合うおかず」3品(智恵子の里農産加工組合の大根甘酢漬、道の駅ふくしま東和のしそ葉まき(えごま)、道の駅さくらの郷のきゃらぶき)の試食を行った他、「福、笑いクイズ」を実施し、おいしさや特徴のPRをしました。</p> <p>試食後のアンケートでは、「福、笑い」について「おいしい」といった感想が多くありました。また、「ごはんに合うおかず」の人気投票を実施した結果、道の駅ふくしま東和のしそ葉まきが1位、智恵子の里農産加工組合の大根甘酢漬と道の駅さくらの郷のきゃらぶきは共に2位となりました。3品とも安達地域の直売所等で販売されています。</p> <p>当所としては、今後も県北産農林産物の地産地消・消費拡大に向けた取組を関係機関・団体と連携しながら実施していきます。</p>
<p>写真</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>写真1</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>写真2</p> </div> </div>
<p>写真タイトル</p>	<p>写真1 「福、笑いクイズ」で来場者へPRする家久来所長とライシーホワイト 写真2 「福、笑いクイズ」に参加する来場者</p>
<p>担当部署</p>	<p>企画部</p>
<p>振興方向</p>	<p>3 安全で魅力的な農林産物の安定供給と販売促進</p>

**題名 県北産のりんごと野菜をフルシーズン、フルに楽しみましょう！**

令和5年9月25日（月）～令和6年1月24日（水）まで、ふくしまのフルーツを、フルシーズン、フルに味わう！「ふくしまフル活キャンペーン」を開催しています。

このキャンペーンは、県北産くだものや野菜の魅力を知っていただくため、県北地方の製菓店や飲食店等の協力を得て、旬の時期以外でも、フルーツや野菜を美味しく召し上がっていただく機会を創出することを目的に開催しています。

第1弾は、9月25日（月）～11月24日（金）に「県北産もも&野菜編 ワンコイン フル×ベジ パン&スイーツ！」として、ももや野菜を使った料理を計10店舗で提供しました。参加者から「ももの加工品がこんなに美味しいなんて知らなかった。何度でも食べたくなる美味しさだった」「第2弾も待ちきれない」などの声があるなど、大好評でした。

第2弾は、令和5年11月25日（土）～令和6年1月24日（水）まで、りんごや野菜を使った料理を計10店舗でクーポン券でお得に提供しています。

クーポン券は、道の駅や対象店で配布のチラシ、県北農林事務所のHPや日刊CJMonmoWebからダウンロードしたカラーチラシ、CJMonmo12月号に掲載のクーポン券、協力飲食店内のPOPのWebクーポンを使って700円以上のセットが500円で購入できます！またとない機会です。是非楽しんでください。

「ワンコイン フル×ベジ パン&スイーツ！」の詳細は、フル活で検索するか、当所のホームページを御覧ください。

本文







写真

写真1 「ワンコイン フル×ベジ パン&スイーツ！」チラシ 表  
 写真2 「ワンコイン フル×ベジ パン&スイーツ！」チラシ 裏

担当部署 企画部

振興方向 3 安全で魅力的な農林産物の安定供給と販売促進




<p>題名</p>	<p><b>食品表示法研修会（県北地方）を開催</b></p>
<p>本文</p>	<p>令和5年11月29日（水）、福島県庁において当所主催の「令和5年度食品表示法研修会」を開催しました。当日は県北地方の漬物や菓子等を扱う加工・製造業者、農産物直売所スタッフなど、56名が参加しました。</p> <p>研修会では、はじめに当所職員より、原料原産地制度などの「品質事項」について説明を行いました。続いて、県北保健所職員から添加物やアレルギーの表示方法などの「衛生事項」、栄養成分表示などの「保健事項」について説明が行われました。</p> <p>参加された方々は熱心に説明に耳を傾け、食品表示のルールについて、より理解を深めていただく機会となりました。</p>
<p>写真</p>	<div style="text-align: center;">  <p>写真1</p>  <p>写真2</p> </div>
<p>写真タイトル</p>	<p>写真1 研修会の様子 写真2 熱心に説明をきく参加者</p>
<p>担当部署</p>	<p>企画部</p>
<p>振興方向</p>	<p>3 安全で魅力的な農林産物の安定供給と販売促進</p>

<p>題名</p>	<p><b>ぶどう栽培技術「盛土式根圏制御栽培」の 現地検討会を開催しました</b></p>		
<p>本文</p>	<p>令和5年8月28日（月）に福島市松川町において、ぶどうの「盛土式根圏制御栽培」の現地検討会を開催しました。当日は県内の果樹生産者や関係機関含めて50名が集まりました。</p> <p>当所では、令和元年に松川町の生産者の園地に現地実証ほを設置し、生育調査や栽培管理支援を行っています。</p> <p>「盛土式根圏制御栽培」は、遮根シートで地面と隔離した盛土に苗木を植え付け、点滴チューブを設置して水と肥料の配分を調整しながら育成する栽培技術です。苗木を植えてから2年目で樹形が完成するため、早期多収が期待でき、さらに、樹形をV字型に仕立て、主枝を1方向に定めることで、作業の省力化も図ることができます。</p> <p>昨年度は10aあたり2.1tのぶどうが収穫され、慣行以上の収量を得ることができました。作業動線が単純化することにより、整枝せん定にかかる時間が慣行栽培に比べて4割減少するなど一定の成果が得られました。</p> <p>検討会では、当部の担当から現地実証ほにおける成果と経営モデルの説明を行い、園主である生産者から栽培管理の中で気づいた点などを説明しました。</p> <p>参加者は栽培方法や設備などを実際に確認しながら、質問や意見交換を行い技術への理解を深めていました。</p>		
<p>写真</p>	 <p>写真1</p>	 <p>写真2</p>	
<p>写真タイトル</p>	 <p>写真3</p>	 <p>写真4</p>	
<p>担当部署</p>	<p>農業振興普及部</p>		
<p>振興方向</p>	<p>3 安全で魅力的な農林産物の安定供給と販売促進</p>		

<p>題名</p>	<p><b>J Aふくしま未来の表敬訪問を受けました！</b></p>
<p>本文</p>	<p>J Aふくしま未来の数又組合長とJ-FAP（J Aふくしま未来の農産物PR隊員）が、くだもの王国ふくしまを代表する旬のももやりんごなどのPRのために当所を訪問し、所長へ贈呈しました。</p> <p>9月11日(月)にもも「さくら」、日本なし「豊水」、10月10日(火)にぶどう「シャインマスカット」、11月20日(月)にりんご「ふじ」が、旬を迎えいずれも品質は良いと出来映えの報告がありました。</p> <p>また、JAふくしま未来の数又組合長からは、施設の整備等を進めてきたことから、今年度のももやキュウリの販売額が過去最高となることが確実となったことが報告され、大きく収益を上げている農家も紹介されるなど、JAふくしま未来の「儲かる農業」の実践に期待がもたれます。</p>
<p>写真</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>写真1</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>写真2</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;">  <p>写真3</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>写真4</p> </div> </div>
<p>写真タイトル</p>	<p>写真1 もも「さくら」の贈呈(左からJ A数又組合長、家来久所長)          写真2 日本なし「豊水」の贈呈          写真3 「シャインマスカット」の贈呈          写真4 りんご「ふじ」の贈呈</p>
<p>担当部署</p>	<p>農業振興普及部</p>
<p>振興方向</p>	<p>3 安全で魅力的な農林産物の安定供給と販売促進</p>

<p>題名</p>	<p><b>花を愛でる文化の醸成に向けて花育活動を実施しました</b></p>
<p>本文</p>	<p>令和5年9月29日（金）、10月25日（水）に福島市内の小学校2校において、県北地方フラワーネットワークの取組の一環として、花育活動を実施しました。2校合計で児童97名の参加がありました。</p> <p>当所では、令和4年度に生産、流通、販売及び使用に関わる機関・団体で構成する県北地方フラワーネットワークを設置し、地域で生産される花きの認知度向上や利用促進に向けた活動を行っています。</p> <p>花育活動では、当所で県内で生産されている花きとその特徴について紹介をするとともに、地元生花店の協力を得て、フラワーアレンジメント体験を行いました。</p> <p>県産花きの紹介では、児童が興味深く説明を聞く姿がみられ、花きについての理解を深めていました。</p> <p>フラワーアレンジメント体験では、9月29日は中秋の名月、10月25日はハロウィンの雰囲気表現する花材が用いられ、参加した児童は、花に直接触れながらそれぞれの感性でアレンジ作成を楽しんでいました。</p>
<p>写真</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>写真1</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>写真2</p> </div> </div>
<p>写真タイトル</p>	<p>写真1 児童の作成したフラワーアレンジメント（9/29）          写真2 児童の作成したフラワーアレンジメント（10/25）</p>
<p>担当部署</p>	<p>農業振興普及部</p>
<p>振興方向</p>	<p>3 安全で魅力的な農林産物の安定供給と販売促進</p>










<p>題名</p>	<p><b>令和5年度県北地方特定家畜伝染病防疫演習を開催しました</b></p>
<p>本文</p>	<p>令和5年10月24日(火)、川俣町体育館において「令和5年度県北地方特定家畜伝染病防疫演習」を開催しました。</p> <p>本演習は発生時を想定し、現地対策班の120名が対応能力向上及び関係機関の連携強化を図ることを目的に毎年開催しており、当日は県北管内の市町村、団体、警察署、県建設業協会、関係機関の職員が参加しました。</p> <p>「消毒ポイントの運営、消毒体験」では、福島警察署から車両誘導の注意点、一般社団法人福島県ベストコントロール協会から車両消毒に係る作業上のポイント、日本建設機械レンタル協会福島支部から投光器の取扱い方法及び注意点について説明いただき、その後、消毒ポイント運用時の一連の作業の流れを実演のうえ確認しました。</p> <p>「集合センターの運営、業務実演」、「農場隣接テントでの作業等実演」では、17名の動員者役を配置し、集合センター及び農場隣接テント内での受付、防護服等の着脱、手荷物受払い等について演習を実施しました。</p> <p>当所では今後とも関係機関・団体と連携を密にし、万が一発生した場合に万全な体制がとれるよう引き続き取り組んでいきます。</p>
<p>写真</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>写真1</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>写真2</p> </div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;">  <p>写真3</p> </div>
<p>写真タイトル</p>	<p>写真1 消毒ポイントの車両消毒の様子          写真2 集合センターの受付の様子          写真3 農場隣接テントの防護服着用の様子</p>
<p>担当部署</p>	<p>農業振興普及部</p>
<p>振興方向</p>	<p>3 安全で魅力的な農林産物の安定供給と販売促進</p>

<p>題名</p>	<p><b>福島県富女子会が活動開始しました</b></p>
<p>本文</p>	<p>県北地方の女性農業者が生産技術、経営技術の向上のための勉強会として、令和5年10月30日（月）、福島県農業総合センター果樹研究所において13名が出席して「第1回福島県富女子会勉強会」が開催されました。</p> <p>当日は、緑の安全推進協会の木村恒先生から「農作物を生産出荷する農家の農薬適正使用」について、福島県農業総合センター果樹研究所職員2名から「福島県におけるももの育種の方向と主要品種の特徴」について講義が行われ、参加者からは活発な質問がありました。</p>
<p>写真</p>	<div data-bbox="344 611 1436 1330" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: center;">写真1</p>
<p>写真タイトル</p>	<p>写真1 「第1回福島県富女子会勉強会」の風景</p>
<p>担当部署</p>	<p>農業振興普及部</p>
<p>振興方向</p>	<p>3 安全で魅力的な農林産物の安定供給と販売促進</p>

<p>題名</p>	<p><b>県北地方における福島県環境負荷低減事業活動実施計画認定（農業・畜産）の説明会開催</b></p>
<p>本文</p>	<p>福島県環境負荷低減事業活動実施計画認定（通称：みどり認定）について、令和5年11月1日（水）に関係機関・団体を参集して「県北地方における福島県環境負荷低減事業活動実施計画認定（農業・畜産）に関する説明会」を開催しました。</p> <p>当日は県農林企画課や環境保全農業課から、制度の概要や認定基準の説明をした後、当所より県北地方におけるみどり認定の対応について説明しました。出席した21名からは積極的に質問がされるなど、制度の内容について理解を深めていました。</p> <p>&lt;福島県環境負荷低減事業活動実施計画認定とは&gt;</p> <p>令和4年7月1日に施行された「環境と調和の取れた食料システムの確立のための環境負荷低減事業活動の促進等に関する法律（令和4年法律第37号）」に基づく認定制度で、令和5年6月1日に「福島県環境負荷低減事業活動実施計画認定要領」が施行されました。</p> <p>大きく「土づくり、化学肥料・化学農薬の低減の取組を一体的に行う事業活動」、「温室効果ガスの排出量を削減する取組」、「その他農林水産大臣が認める環境負荷低減事業活動」の活動について、実施計画が認定されます。</p>
<p>写真</p>	 <p>写真1</p>
<p>写真タイトル</p>	<p>写真1 説明会の様子</p>
<p>担当部署</p>	<p>農業振興普及部</p>
<p>振興方向</p>	<p>3 安全で魅力的な農林産物の安定供給と販売促進</p>

<p>題名</p>	<p><b>JA 農産物品評会が開催されました</b></p>
<p>本文</p>	<p>JA ふくしま未来福島地区農産物品評会が開催され、令和5年11月15日（水）に審査会、11月16日（木）に表彰式が行われました。</p> <p>今回の農産物品評会には、計256点の出品があり、内訳は果実の部84点、そさいの部75点、花きの部36点、特産の部32点、穀類の部29点でした。</p> <p>本年は、春先の凍霜害や夏場の猛暑・渇水など厳しい気象条件ではありましたが、生産者の皆様と関係機関・団体が一丸となって栽培管理を徹底されたことから、品評会には多くの素晴らしい農産物が出品されました。</p> <p>全般的に甲乙つけがたい状況の中、審査員による厳正な審査を行った結果、福島県知事賞1点をはじめとする特別賞11点、金賞11点、銀賞16点、銅賞27点の総計65点が選定されました。</p> <p>特に福島県知事賞を受賞した飯坂町の村上弘様のりんご「サンふじ」は、着色、重量感、形だけでなく、内部の蜜入りも十分で、素晴らしい品質のりんごでした。</p> <p>入賞された皆様方、誠におめでとうございます。</p>
<p>写真</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>写真1</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>写真2</p> </div> </div>
<p>写真タイトル</p>	<p>写真1 審査会の様子 写真2 「福島県知事賞」と「ふくしま未来農業協同組合組合長賞」を受賞したりんご「サンふじ」</p>
<p>担当部署</p>	<p>農業振興普及部</p>
<p>振興方向</p>	<p>3 安全で魅力的な農林産物の安定供給と販売促進</p>

<p>題名</p>	<p><b>県北管内の生産者が県林業コンクール・きのこ品評会で入賞しました</b></p>
<p>本文</p>	<p>県では、林業技術の向上と林業経営の改善を図り、本県の林業の発展の推進を目的とした県林業コンクールを開催しています。今年度は山林苗畑部門で福島市の造園会社である株式会社野尻緑産様が県農林種苗農業協同組合代表理事組合長賞を受賞し、令和5年10月21日(土)に表彰式が行われました。株式会社野尻緑産様は、海岸防災林用の抵抗性クロマツ苗木(*1)の生産やスギ特定母樹苗木(*2)の生産に尽力し、県内林業の発展に貢献されています。今回は適正な管理の下、根茎が発達し、徒長がみられない品質の高いスギ苗木を生産されている点が評価され、受賞となりました。</p> <p>10月20日(金)にはきのこ生産技術の改善による品質の向上と需要の拡大を促進し、きのこ産業の発展に寄与することを目的とした「きのこ品評会」が開催され、県北管内からは4名の方が入賞しました。生しいたけの部原木栽培部門では、本宮市の渡邊富士雄氏が福島民報社代表取締役社長賞を、伊達市の大橋茂美氏が全国農業協同組合連合会福島県本部長賞を受賞しました。なめこ・ひらたけの部では、伊達市の三浦久義氏が公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会会長賞を、乾しいたけの部では、福島市の山田としい氏ご家族が全国椎茸商業協同組合連合会理事長賞を受賞しました。今年は春から秋にかけて記録的な高温が続き、皆様、散水等の品質の維持管理作業に尽力されたとのことでした。</p> <p>各種コンクールを通じて生産者の皆様の様々な努力を知り、改めて尊敬の念を抱く機会となりました。コンクールに参加された皆様の今後の御活躍を御祈念申し上げます。</p> <p>(*1)抵抗性クロマツ：松くい虫被害の原因となるマツノザイセンチュウに対する抵抗性を有したクロマツ</p> <p>(*2)スギ特定母樹：成長量がよく(通常の1.5倍)、材質がよく(通直で強い)、花粉が少ない(通常の半分以下)等、優秀な遺伝子を持つスギ</p>
<p>写真</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>写真1</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>写真2</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>写真3</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;">  <p>写真4</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>写真5</p> </div> </div>
<p>写真タイトル</p>	<p>写真1 (株)野尻緑産 野尻良光常務、写真2 渡邊富士雄氏 写真3 大橋茂美氏、写真4 三浦久義氏、写真5 山田康人氏</p>
<p>担当部署</p>	<p>森林林業部</p>
<p>振興方向</p>	<p>3 安全で魅力的な農林産物の安定供給と販売促進</p>

<p>題名</p>	<p><b>「にら」、「しゅんぎく」の出荷が始まりました！</b></p>		
<p>本文</p>	<p>当普及所管内において、県内一の出荷量を誇る、「秋冬にら」、「しゅんぎく」の出荷が始まりました。</p> <p>今年の夏は気温が高く乾燥していたため、「にら」では株に栄養を充実させるための管理が必要でしたし、「しゅんぎく」では発芽が悪い、害虫の発生が多いなど、生産面での苦労が多い年になりました。現在はいずれの品目も順調に生育し、出荷を迎えています。</p> <p>「にら」は令和5年10月6日（金）、「しゅんぎく」は10月24日（火）に、それぞれJAふくしま未来伊達地区の令和5年度生産部会出荷協議会が開催されました。出荷協議会では、今年度の販売情勢や出荷計画、販売対策について生産者や市場等の関係者で協議を行いました。「にら」は250t、「しゅんぎく」は225tの販売量を目標に、部会員一丸となって生産していくことを確認しました。</p> <p>当普及所としては、引き続き高品質な「にら」、「しゅんぎく」が出荷されるよう、技術支援を行っていきます。</p>		
<p>写真</p>	 <p>写真1</p>	 <p>写真2</p>	
	 <p>写真3</p>	 <p>写真4</p>	
<p>写真タイトル</p>	<p>写真1 生育中の「にら」          写真2 「にらっ娘」の愛称で販売されている「にら」          写真3 保温準備が進む「しゅんぎく」のハウス栽培          写真4 袋詰めされた「しゅんぎく」</p>		
<p>担当部署</p>	<p>伊達農業普及所</p>		
<p>振興方向</p>	<p>3 安全で魅力的な農林産物の安定供給と販売促進</p>		





題名	大玉村で福島県トップブランド米「福、笑い」の収穫式を開催	
本文	<p>令和5年9月27日（水）、大玉村において、本格デビューから3年目となる福島県トップブランド米「福、笑い」の収穫式が、あだたらの里「福、笑い」研究会の伊藤洋氏の水田で行われました。</p> <p>内堀雅雄知事、押山利一大玉村長、大玉村の小中学生、福島大学や県農業総合センター農業短期大学の学生など合わせて15名が、あだたらの里「福、笑い」研究会会長の今井雄治氏から稲の刈り方を教わり、あいにくの雨模様の中、収穫作業を行いました。</p> <p>収穫作業のあとは、「福、笑い」の新米のおにぎりをみんなで食べ、参加者からは「みんなで稲刈りした後に食べる『福、笑い』はおいしい」などの声があがりました。</p> <p>また、収穫式で収穫したお米は乾燥・調製された後、田植え式・収穫式に参加した大玉村の小中学生が、10月18日（水）に内堀知事を表敬訪問し、贈呈しました。贈呈後の懇談では、田植え式・収穫式の感想などで盛り上がりました。</p> <p>本年は記録的な猛暑の影響で、米の品質低下が見られますが、安達地域の「福、笑い」は、各生産者の適正な栽培管理により全量1等米となっています。</p> <p>当普及所では、今後も「福、笑い」研究会の活動支援等を通して、高品質・良食味な「福、笑い」の生産を支援していきます。</p>	
写真		
	<p>写真1</p> 	<p>写真2</p> 
写真タイトル	<p>写真1 収穫式で刈取を行う内堀知事</p> <p>写真2 収穫式での参加者の集合写真</p> <p>写真3 内堀知事を表敬訪問し「福、笑い」を贈呈した大玉村の小中学生</p> <p>写真4 贈呈後の懇談の様子</p>	
担当部署	安達農業普及所	
振興方向	3 安全で魅力的な農林産物の安定供給と販売促進	





<p>題名</p>	<p><b>第2回きゅうり基礎講座の開催</b></p>
<p>本文</p>	<p>令和5年11月1日（水）、二本松合同庁舎において、当普及所とJAふくしま未来安達地区本部との共催で、安達地域の主要品目であるきゅうりの新規栽培者等を対象とした「第2回きゅうり基礎講座」を開催しました。</p> <p>本講座には、管外からの参加を含む、栽培歴1～2年目の新規栽培者および栽培希望者合計16名が受講し、きゅうりの基本的な栽培技術の習得等を目指して、基礎知識を学びました。</p> <p>今回の講座では、JAふくしま未来で制作した動画を活用し、定植作業や枝葉の整理、収穫作業等のポイントを視聴するとともに、栽培ステージごとのさまざまな気象災害に対応した栽培管理のポイントについて学びました。施設化のメリットやそれに係る補助事業について説明しました。</p> <p>受講者からは、摘芯と側枝の切除の違いや農薬散布、農薬ドリフト障壁作物であるソルゴーの播種時期等栽培に係る質問が多く出ました。受講後のアンケートでは、施設化についてもう少し詳細を知りたい、施設栽培の手順を教えてほしい等の要望があり、また、今回の講座を受けて参考になったとの意見が多く寄せられました。</p> <p>当普及所では、今後も継続して新規栽培者の技術向上を支援していきます。</p>
<p>写真</p>	<div data-bbox="429 965 999 1388" data-label="Image"> </div> <p>写真1</p>
<p>写真タイトル</p>	<p>写真1 きゅうり栽培動画の視聴</p>
<p>担当部署</p>	<p>安達農業普及所</p>
<p>振興方向</p>	<p>3 安全で魅力的な農林産物の安定供給と販売促進</p>





題名	今年も「布沢棚田の芸術祭」が開催されました！	
本文	<p>令和5年10月28日（土）29日（日）の2日間、二本松市太田（旧東和町）の東和の布沢棚田で、「布沢棚田の芸術祭」が布沢集落と「布沢の環境を守る会」の主催で開催されました。</p> <p>芸術祭当日は天候にも恵まれ、今年初めて開催した「布沢の棚田 WALK」の参加者は、約 2.5 kmの道のりを1時間半かけ棚田ウォーク案内人の案内で地域の史跡を巡ったり、語り部から地元の民話を聴いて地域の魅力を再認識していました。棚田 WALKの参加者からは、「友達に誘われて東京から来たが、豊かな自然の美しさと民話が残っていて感動した」「震災前から棚田米つながりだったが芸術祭に参加しておいしい米の原点を知った」など感想が聞かれました。</p> <p>その後は、天女会（女性部）の企画した収穫感謝祭が開催され、餅つき大会や棚田米を使ったおにぎりと棚田地域で収穫した野菜の豚汁に、参加者全員が里山の美味に舌鼓を打っていました。</p> <p>午後からは、毎年恒例の案山子コンクールの表彰式や陶芸体験教室などが行われ参加者は秋の一日を満喫していました。</p> <p>この芸術祭の2日間は、布沢棚田のキャラクター「ぬーによ」が天から舞い降りて来て、天女の舞を披露したり棚田 WALK などの各イベント会場を参加者と一緒に回って楽しんでいました。</p> <p>当所としては、棚田を核とした地域の活性化に向けた活動を引き続き支援していきます。</p>	
写真	<div style="display: flex; flex-wrap: wrap;"> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>写真1</p> </div> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>写真2</p> </div> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>写真3</p> </div> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>写真4</p> </div> </div>	
写真タイトル	<p>写真1 「ぬーによ」と一緒に棚田 WALK を楽しむ参加者</p> <p>写真2 棚田案内人の説明を聞く棚田 WALK の参加者</p> <p>写真3 里山の美味に舌鼓を打つ笑顔の参加者</p> <p>写真4 案山子コンクール最優秀賞 キッズドア仙台Girls制作の作品</p>	
担当部署	企画部	
振興方向	4 豊かな農山村の形成と活性化	



<p>題名</p>	<p><b>令和5年度「田んぼの学校 稲刈り」を行いました！</b></p>
<p>本文</p>	<p>令和5年9月19日（火）、今年度からモデル小学校として「田んぼの学校」に取り組んでいる「二本松市立東和小学校」で、「布沢の環境を守る会」の協力の下、「東和の布沢棚田」の稲刈りを行いました。今年は猛暑の影響により稲の生育が早く、予定よりも3週間早い稲刈りとなりました。</p> <p>はじめに、田んぼの学校長の菅野金一氏より稲刈りの説明を受けた後、児童たちは稲刈りに入りました。</p> <p>児童たちは、「布沢の環境を守る会」の会員と当所職員から「鎌の使い方」や「稲の束ね方」の指導を受け、熱心に取り組んでいました。</p> <p>今回の体験で稲刈りに自信をもった児童から、「今度、稲刈りをする機会があったら、今日、教わったやり方です。」との話も聞くことができました。</p> <p>稲刈りが終わると、「布沢の環境を守る会」会長の菅野正寿氏より児童たちに、日照りから沢水を守ってくれる布沢の山の恵みの話や収穫に関連した地域の文化（案山子や秋祭り）についての話がありました。</p> <p>刈り取った稲束は、天日と風で十分に乾燥させてから、天気の良い日に脱穀する予定です。</p>
<p>写真</p>	<div style="display: flex; flex-wrap: wrap; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>写真1</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>写真2</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>写真3</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>写真4</p> </div> </div>
<p>写真タイトル</p>	<p>写真1 「鎌の使い方」を学ぶ小学生          写真2 「稲の束ね方」を学ぶ小学生          写真3 稲を乾燥させるために稲束を棒につるす（はせがけする）小学生          写真4 稲を乾燥させるために稲束を棒につるす（はせがけする）小学生</p>
<p>担当部署</p>	<p>農村整備部</p>
<p>振興方向</p>	<p>4 豊かな農山村の形成と活性化</p>

題名	令和5年度「田んぼの学校 脱穀」を行いました！	
本文	<p>令和5年10月19日（木）、今年度からモデル小学校として「田んぼの学校」に取り組んでいる「二本松市立東和小学校」で、「布沢の環境を守る会」の協力の下、「東和の布沢棚田」で稲穂から籾を外す脱穀の作業を行いました。</p> <p>はじめに、田んぼの学校長の菅野金一氏より脱穀についての説明を受けた後、児童たちは千歯こぎ、足踏み脱穀機、ハーベスタの3種類の脱穀作業体験をしました。</p> <p>千歯こぎは、「布沢の環境を守る会」会長の菅野正寿氏のお手本では、たくさんの稲束や稲穂から手際良く籾をはずしていましたが、実際に児童が取り組んでみると思ったより難しく力も要領も必要なことがわかりました。</p> <p>足踏み脱穀機は、作業自体のリズムが良いこと、どんどん籾がはずれていくことから、作業が面白く感じられたようで「もっとやりたい」との声があがりました。</p> <p>ハーベスタを使用した脱穀では、チームワーク良く、流れ作業でどんどん機械へ稲束を運んでいきました。</p> <p>千歯こぎや足踏み脱穀機を初めて見る児童も多く、「とても貴重な体験をすることができた」と話してくれる児童もいました。</p> <p>12月の感謝祭で、育てたお米からつくったお餅をいただくのが楽しみです。</p>	
写真	<div style="display: flex; flex-wrap: wrap;"> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>写真1</p> </div> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>写真2</p> </div> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>写真3</p> </div> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>写真4</p> </div> </div>	
写真タイトル	<p>写真1 たくさんの稲穂を手際よく脱穀してみせます（千歯こぎ）</p> <p>写真2 力いっぱい引っ張ります（思ったより力が必要です（千歯こぎ））</p> <p>写真3 脱穀機の回転にタイミングを合わせます（足踏み脱穀機）</p> <p>写真4 みんなで協力してどんどん脱穀していきます（ハーベスタ）</p>	
担当部署	農村整備部	
振興方向	4 豊かな農山村の形成と活性化	

<p>題名</p>	<p><b>農業水利施設の役割について学習しました！</b></p>
<p>本文</p>	<p>水土里を育む普及促進事業は農地・農業用施設を含む農村地域において、市町村や土地改良区等が行う農業者、地域住民、消費者などを対象とした体験学習会及び広報活動を支援しています。</p> <p>この事業を活用し、令和5年10月24日（火）と11月14日（火）、福島市土地改良区主催による「栗本堰を訪ねる小学生勉強会」が行われました。当日は、福島市立笹谷小学校4年生の児童83名、福島市立大笹生小学校4年生の児童12名が、栗本堰の見学を行いました。児童たちは、初めて見る農業水利施設に興味津々の様子でした。</p> <p>11月9日（木）にも、同じく水土里を育む普及促進事業で、伊達西根堰土地改良区が「西根堰バーチャルツアー体験&amp;施設見学会」を行いました。当日は、一般の参加者15名が芝堤頭首工等を施設見学したり、ドローンで撮影した映像を使って水が西根堰から田んぼまで流れる様子をたどったりしました。</p> <p>これらの学習会を通じて、参加者は農業水利施設の役割と水の大切さを学習しました。</p>
<p>写真</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>写真1</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>写真2</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;">  <p>写真3</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>写真4</p> </div> </div>
<p>写真タイトル</p>	<p>写真1 栗本堰円形分水          写真2 栗本堰頭首工          写真3 芝堤頭首工          写真4 バーチャルツアー体験</p>
<p>担当部署</p>	<p>農村整備部</p>
<p>振興方向</p>	<p>4 豊かな農山村の形成と活性化</p>

<p>題名</p>	<p><b>3つの小学校で木工教室出前講座を実施しました</b></p>
<p>本文</p>	<p>令和5年8月から10月にかけて、福島市内の3小学校で合計7回の「木とのふれあい創出事業出前講座」を実施しました。</p> <p>この取組は、県民の皆様からいただいている福島県森林環境税を活用して、子どもたちに森林の大切さや木材利用についての理解を深めてもらうことを目的として、毎年実施しています。</p> <p>今年度は、昨年度に引き続きの水保小学校と野田小学校に加えて、新たに平田小学校の3・4年生を対象に実施しました。</p> <p>当日は、もりの案内人や当所の職員から、森林のはたらきや木材の利用と再生林の大切さについて話をした後、のこぎりやかなづちを使った木工工作を行いました。</p> <p>参加した3・4年生は、これらの工具を初めて使う児童がほとんどでしたが、もりの案内人などから、工具の使い方の説明や実演のほか、作業を手伝ってもらうことで児童はすぐに工具の扱いに慣れ、1時間半程度の短い講座の間に、木材を自由な発想で切ったりつないだりして作品を形にしていました。</p> <p>講座が終わる頃には、子どもたちから「楽しかった!」「のこぎりは実際に使ってみると難しくて大変だったけど、もっとやってみたい!」といった感想を聞くことができました。</p> <p>今年度は、1月にも、新たに福島市立森合小学校で出前講座を実施する予定で、取組が広がっています。</p> <p>当所では、今後もこの取組を継続して、木とふれあう機会を提供し、子どもたちの森林づくり意識の醸成に取り組んでいきます。</p>
<p>写真</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>写真1</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>写真2</p> </div> </div>
<p>写真タイトル</p>	<p>写真1 イラストや実物を使って木材の特徴やのこぎりの使い方を説明          写真2 指導を受けながらのこぎりで沢山の木片を切り出す児童</p>
<p>担当部署</p>	<p>森林林業部</p>
<p>振興方向</p>	<p>4 豊かな農山村の形成と活性化</p>

題名	国見小学校の児童が「天のつぶ」の稲刈りをしました	
本文	<p>令和5年9月29日（金）、農業や農作物への理解を深め、食の恵みや豊かさ大切さを伝えるため、国見小学校5年生児童54名を対象とした農業体験学習（稲刈り作業）が開催されました。</p> <p>この学習田は、令和5年5月9日（火）の農業体験で児童が田植を行い、地域の中心的な担い手である小坂アグリ株式会社が管理をしていました。</p> <p>実りを迎えたお米（福島県オリジナル品種「天のつぶ」）は関係機関・団体・当普及所職員のサポートにより児童らが手刈りを行いました。</p> <p>児童らは、稲刈り前に鎌の使い方等の説明を受けた後、稲刈り鎌を使った刈取と刈り取った稲の結束作業、ほ場内での杭かけ作業までの一連の作業を行いました。</p> <p>代表児童からは「初めのうちは刈るのも紐を結ぶのも難しかったけど、だんだんできるようになって、楽しかった。」「刈った稲を紐で結ぶのが難しかった。先生に教えてもらったら上手にできて、嬉しかった。」等の感想や感謝の言葉が述べられました。</p> <p>当普及所では、今後も、関係機関と連携しながら安全・安心な米作りや食育活動を支援していきます。</p>	
写真	 <p>写真1</p>	 <p>写真2</p>  <p>写真3</p>  <p>写真4</p>
写真タイトル	<p>写真1 小坂アグリ株式会社による子供たちへの稲刈り前の説明と注意事項</p> <p>写真2 子供たちの稲刈り開始</p> <p>写真3 稲刈り後に稲束を乾燥するため、棒掛けの稲束</p> <p>写真4 小坂アグリ株式会社のコンバイン収穫作業見学</p>	
担当部署	伊達農業普及所	
振興方向	4 豊かな農山村の形成と活性化	

<p>題名</p>	<p><b>鳥獣被害防止対策モデル集落による視察研修会を開催しました</b></p>
<p>本文</p>	<p>令和5年10月30日（月）、当普及所の鳥獣被害防止の総合的な対策を行うモデル集落である伊達市梁川町堰本地区の東木田集落住民による「視察研修会」を開催しました。</p> <p>研修会では、総合的な鳥獣被害対策の先行地である猪苗代町白津集落を訪れ、集落で設置した複合柵（ワイヤーメッシュ柵＋電気柵）を視察しました。また、猪苗代町の担当者から白津集落における鳥獣被害対策の取組みについて説明いただき、住民同士の意見交換も盛んにおこなわれました。</p> <p>研修を受けた住民からは「他集落での取組みを視察できて良かった。」「特に、農業者以外の住民も連携したワイヤーメッシュ柵等の維持管理体制についてとても参考となった。」という感想が聞かれました。</p> <p>当普及所では集落が主体となる鳥獣被害対策の取組みに対して、引き続き支援を継続していきます。</p>
<p>写真</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>写真1</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>写真2</p> </div> </div>
<p>写真タイトル</p>	<p>写真1 複合柵視察の様子          写真2 猪苗代町担当者による講演と意見交換</p>
<p>担当部署</p>	<p>伊達農業普及所</p>
<p>振興方向</p>	<p>4 豊かな農山村の形成と活性化</p>